

令和5年度 学校評価報告書

学校教育目標		徳・知・体の調和がとれた、人間性豊かで、たくましい生徒を育成する。		重点目標	人を大切にし、共に学び、高め合う生徒の育成			
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画
重点目標	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	結果(成果○と課題△)		コメント	次年度における改善策(案)
	人間関係力の向上	〇 道徳教育の内容を充実させる 「ありがたいの日」メルシーーチ (重点項目)「思いやり、感謝」「相互理解、寛容」	【学校生活チェックリスト】 5.今の自分の気持ちや思いを言葉で表現することができる ⇒ 3.2以上	4	〇	メルシーーチでは、生徒会を中心にたくさんの思いを掲示し、そのボードも工夫を凝らした物であった。	A	・学校の評価は適切である。 ・メルシーーチは共感の関係が得られ良い取組だと思います。
〇 授業や行事で子供の出番や役割を全員に作り、振り返り頑張ったことを認める指導をする。		【学校生活チェックリスト】 行事アンケート「充実感や達成感を味わえた」85%以上	4	〇	行事アンケートでは、充実感、団結など全ての項目で90%以上の生徒が良かったと答え、保護者の評価も高かった。	A	・登下校では立ち止まって大きな声で挨拶してくれる生徒が多く見られ、授業参観の様子からも落ち着いて生活していると感じます。校長が掲げる「みとめ、励まし、褒める」ことが実践されているのだと思います。	・生徒会や専門委員を動かし、ESDなど主体的な活動ができるように工夫する。
〇 仲間を大切にし、共に学び、高め合い、自分らしく輝く生徒を育成する学年・学級指導を行う。 ・人の気持ちを考えて行動できる生徒の育成。		【学校生活チェックリスト】 6.友だちが嫌な気持ちを隠していたら、それに気づくことができる ⇒ 3.1以上	4	〇	道徳科の授業では、コミュニケーションをとりながら生徒相互に考える時間をとり、相手を尊重する気持ちが育っている。	A	・気持ちを表現することは難しい面もありますが、たくさんの掲示物があり自分に近い思いを選択しやすい環境であると思います。	・「感謝の心」で対応できる思考力、判断力を育てる。
〇 子ども一人一人の良さを価値づけし、他者受容できる体験の場を設定し、自己存在感を高める。		【学校生活チェックリスト】 8.嫌なことがあって前向きに考えることができる。3.0以上	4	〇	授業では話し合い活動を取り入れ、教師、生徒同士で共感し、主体的に学びへ向かう態度が向上してきた。	A	・地域と一緒に活動(遊ぶ)する機会がかなり減少していると感じます。中学生を含めた地域のイベントを応援します。	・タブレットを活用した授業工夫改善に努めたい。タブレットドリルなどを活用した基礎学習の定着を目指す。
〇 学校や地域・家庭生活の中で進んでまわりの人と関係作りができるようにする。		【子育てチェックリスト】12.バザーなど子供と保護者が一緒に参加するイベントに参加している。⇒ 2.5以上	4	〇	本年度は地域でのイベント等々積極的な参加を行った。 (吹奏楽部のコンサートや防災研修会参加など)	A	・FMEさんとの放送など取組がわかりやすく述べられたESDの日々の積み重ねが感じられました。	・地域のイベントに積極的な参加を促し、交流できるような取り組みを考えて推進する。
確かな学力の向上	〇 生徒が授業の見通しをもつ「めあて」と「まどめ」の整合性をはかり、振り返りの時間を確保する。	【生徒学習アンケート】 めあてを理解して授業を受けている生徒 ⇒ 3.4以上	4	〇	校内研究で、めあてとまどめを含めた「取り出す」「まどめ見」「創り出す」を取り入れた授業を展開し生徒は見通しをもって授業に入っている。	A	・学校の評価は適切である。 ・確かな学力の向上が見られ、考える力をこれからも強化して欲しい。	・生徒が見通しをもって授業に参加し、「めあて」と「まどめ」が明確化された授業を目指す。
	〇 授業の中で、学習課題をよく読み、理解して課題に取り組むような時間をつくる。(「読解力」の向上)	【生徒学習アンケート】 学習課題をよく読み、理解して取り組んでいる ⇒ 3.1以上	4	〇	読解力を付ける取組を工夫し、思考する時間をとることで主体的に学習できるようになってきている。	A	・授業の「めあて」も大切ですが、何のために学習するのか、将来にむけた自分の目標を見いだしてほしいと思います。	・朝自習の時間などを使って、視写の時間を設けるなど、書く力の取組を進める。
	〇 授業の途中や最後に答えた事を振り返りまとめる時間をとる。(情報の取り出し⇒まどめ創り出す)	【小中連携アンケート】授業の途中や最後に学習した事を振り返りまとめている。⇒ 3.1以上	4	〇	中学校区で同じアンケートを取り、小中共通理解のもと9年間学習を進め丁寧な対応ができています。	A	・学習アンケート⑨の項目で「全く当てはまらない」が減少していることが素晴らしい。先生方の親身な指導のおかげと感じる。	・小中一貫した学力向上の取組を重点化して実践する。
	〇 学力定着につながる基本的な生活習慣の指導を行う。学習以外で使う携帯の時間を減らす。	【学校生活チェックリスト】 27.早寝、12.朝食。⇒ 3.2以上 【家庭教育宣言】定期テスト前一週間は、午後9時以降、携帯を使用しない。70%以上	3	△	PTA役員の協力で携帯使用制限アンケートと実践が進んでいるが、まだまだSNSトラブルは発生している。	A	・中1のアンケートの結果について学習の二極化が進みそうです。スタディサポーター、学習指導員の計画的な活用をお願いします。	・家庭と協力しながら、携帯・スマホの正しい使用方法について啓発する。
	〇 基礎学力向上のために家庭学習の習慣を育てる。	【小中連携アンケート】 決められた宿題以外にも、自分で家庭学習(自主学習)をしている ⇒ 3.0以上	3	〇	1Pノートの取組を入学前から行い、提出の日常化により担任が生徒とつながり、自主的な家庭学習習慣の向上につながっている。	A	・家庭学習について、スマホの使用方法について課題が残ると思います。SNSトラブルについては徹底した指導をしていただきたいと思います。	・子どもの実態に応じた1Pノートやタブレットを活用した家庭学習を行う。
健康・体力の向上	〇 補強運動や体幹運動を取り入れ新体力テストの記録向上を図る。	新体力テストの結果が全国平均を超える。	3	△	コロナ禍により全体的に体力が落ちてきているが、運動する機会やその質を高め、向上しつつある。	A	・学校の評価は適切である。 ・コロナやインフルエンザの流行で難しい局面もあったと思う。日頃の運動が確実に成果を上げている様子であるので、今後も継続的な指導で、体力の向上に努めてください。	・授業の中で、継続的な日常の体力作りにおけるトレーニングについて理解させ、「心技体」の調和のとれた学習に取り組む。
	〇 生徒会の保健委員会を中心とした健康や体づくりに関する保健学習を実施する。	保健委員会による計画的な健康や体づくりに関する保健学習の実施 ⇒ 学期1回実施	3	〇	毎月の「保健だより」や健康観察により、健康安全の取組が徹底している。	A	・健康観察リーフなどで保護者とともに健康観察に気を配る。	
いじめ	〇 いじめアンケートの結果をもとに、担任・学年・生徒指導部を中心に早期発見・早期対応に努める。	【いじめアンケート】 いじめ、不安の訴えへの対応 ⇒ 100%	4	〇	全職員による声かけにより、子どもはアンケートに素直に回答している。	A	・学校の評価は適切である。 ・いじめは絶対にあってはならない。友人間の友情を深め合う対策を講じながら、人権意識も高める学習を進めてください。	・いじめ防止対策として、「早期発見・早期対応」のより迅速な対応が求められる。また、いじめを生まない予防的な取り組みに力を入れていきたい。
	〇 いじめ対策委員会を毎月1回開催し、情報の共有を徹底し、関係機関と連携し素早い支援・指導を行う。	対策委員会の実施、支援の実施、防止対策防止 ⇒ 実績評価	4	〇	いじめ対策会議は生徒指導委員会と教育相談部会で週2回の情報交換で情報を共有し、手立てを講じている。	A	・生徒の変化を見逃さず、職員間での細かい情報交換により、連携して対応できる体制づくりを行う。	
	〇 積極的な生徒指導を行い、日常的な相談体制を確立する。	【学校生活チェックリスト】13・23先生や友だちに会うのが楽しみである。3.0以上	4	〇	頑張りや褒める、認めあうことを繰り返している。	A		
不登校	〇 不登校生徒の個に応じた支援体制の推進と望ましい人間関係づくりと集団づくり	【学校生活チェックリスト】 30.学校で勉強することは楽しい。⇒ 3.0以上 4.違うクラスの友だちに会うことが楽しみである ⇒ 3.4以上	4	〇	校内研修では子どもが全員、心地よい思考の回転ができる様な研修を行い実践しており、前向きに授業を受けている。	A	・学校の評価は適切である。 ・小中連携の取組が重要であると感じます。不登校の現状を再確認し、生徒が安心して登校できる場になるよう丁寧な指導と綿密な情報交換や職員研修をお願いします。このままでは増えていく不安を感じます。	・不登校生徒への対応のために、保護者の理解と短期的な目標を持ち、生徒個人にあった解決方法を模索していきたい。
	〇 学習や相談してマンツーマン方式、個別カウンセリングを徹底的に行い早期発見・早期対応を図る。	【学校生活チェックリスト】10.何で学校に行くのかわからなくなる。⇒ 2.0以下	3	△	学年でのマンツーマン対応は昨年より教師一人一人に浸透し、要因分析を共有するようになった。	A	・要因分析を担当当事者と共有しており、時を変え、場を変え、工夫し改善に向かってあると感じます。	・不登校の兆候が現れたときに、生徒の困り感やニーズをしっかりと把握し要因を分析し対応していく。
	〇 不登校及び傾向の生徒に対する指導の記録の保存を徹底する。	不登校対応記録を積み、継続的で効果的な指導を行う。	3	△	職員も家庭訪問等の指導工夫を行っているが、登校しづりが見られるなど不登校改善に至っていない。	A		
市の働き方改革取組指針にそった働き方改革の取組の実施	〇 ワークライフバランスを考え、効率の良いタイムマネジメントを行う。	1ヶ月の時間外勤務が45時間を超えない。	4	〇	超過勤務指数がかなり減少し、ワークライフバランスの推進が進んでいる。	A	・学校の評価は適切である。 ・教育委員会の指導及び協力により管理職に負担がないよう、柔軟な対応を期待しています。	・生徒の発信や変化を見逃さないために、教師自身が授業準備など余裕をもって活動できるよう、ゆとりのある働き方を推進する。
	〇 会議や行事等の精選、縮減及び効率的な運営をする。	超過勤務時間、前年比(令和4年度)同月比10%減を目標とする。	4	△	今後の部活動のあり方について、社会体育移行も踏まえ、職員の意識改革や、保護者の理解が必要と考える。	A	・適正にむけた取組として前に進んでいると感じられます。	・管理職が教師の健康状態に気を配り、やりがいを感ずる学校作りを心がける。
	〇 部活動休養日、学校定時退校日の設定をする。	週2回の部活動休養日、学校定時退校日の実施	3	〇		A	・時間外の勤務が多いと感じます。早い時間に学校が暗いとおとします。	

〇 評価について
 ・【自己評価】 4:目標達成(90%以上) 3:ほぼ達成(70%~90%) 2:もう少し(60%~70%) 1:できていない(60%未満)
 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである